

「苦難の沖縄 問われる本土」

～ 琉球王国併合から辺野古新基地強行への軌跡 ～

9月29日(土) 14時～

同志社大学 今出川校地 志高館SK119教室

「闘う沖縄 本土の責任」出版記念講演会 資料代:500円



沖縄は今、重大な試練に立たされている。翁長雄志知事急逝に伴う県知事選(9月30日投開票)の行方と、県が踏み切った、辺野古新基地建設計画に伴う埋め立て承認の撤回の行方。

そんな秋。アジアの交易国家として繁栄した琉球王国の歴史を手始めに、明治期の王国併合、皇民化政策、過酷な沖縄戦、米軍占領など沖縄が抱え続けてきた「苦難」を改めてたどってみたい。見えて来るのは、「闘わざるを得ない」沖縄の姿だ。

安倍政権と厳しく対峙し、命を削った翁長知事。6月23日の「沖縄慰霊の日」の平和宣言では、「沖縄の米軍基地問題は、日本全体の安全保障の問題」と、死期迫るなか意志の力だけで述べた。翁長氏の訴えにヤマトの私たちはどう応えるのか、共に考えたい。



ジャーナリスト 元朝日新聞記者 **土岐直彦**



辺野古新基地の歴史から現在を問う

「SAVE HENOKO」

上映 (35分)

問い合わせ：NPO法人市民環境研究所内 TEL 075-711-4832

住所 京都市左京区田中里ノ前町 21石川ビル 305